

# 仏教史上初の盛儀

東大名誉教授 中 村 元はじめ

本日はこのような意義深い儀式に私のような者が参列させていただき、ご指名ではござりますが、お祝いの言葉を述べさせていただくのはまことに恐縮でございます。しばらくのあいだ、お高い所から皆様のご耳をけがすことをお許し願いたいのでござります。

立派な方々が本日ご臨席あられますところ私のような者が参上致することになりましたのは、ひとえに、多年にわたる黒田ご老師様のご縁を有難く思つてゐるからこそでございます。黒田



ご老師様は、仏法交流のために身を粉にしてご尽、力なさつている方でございまして、このような立派なお寺を建てられましたが、近年私が感嘆しておりますのは、目を広く世界に向けられまして、若い佛教者を育てたいというご一念から、若い留学僧の方々を、アジア諸国、欧米諸国にお送りになつていらつしやる。これは容易にできることではございません。本当は國にやつてもらいたいのですが、國はなかなか精神面まで手が回りません。また經濟活動の方には力を入れておるようですけれど、大所も精神面には注意を向けてくださいらない。そこで黒田ご老師様が獨力をもつてこの道を開いてくださつてゐる。まことにありがたいことだと思いまして、心から景仰申し上げてゐるのでございます。

若い人をして道を学ばせるという、そのお気持ちは、人様のお子様から始まりまして、この度は全く驚くべきことに、四人のご子息様が同

時に本日得度されるという、日本の歴史においても、全くはじめてのことです。

このご儀式のためには、タイ国からわざわざ御臨席下さいました、ワット・パグナムでかつてご老師様がご修行なさつたそうですがそのご住職様の、プラ・タム・パンヤー・ボディ師のご要望により、尊師そんを戒師として四人のご子息様が得度式をあげられるということになつたとお聞きしております。

私は言葉のほうもわざかながら手がけておりますのではなはだ余分なことを申し上げます  
が、ダルマは法という意味で皆様もご承知だと思いますが、プラというのをうかがいましたら、比丘のことだそうです。パーリ語ではビックと申しますが。それからテヘラというのは高僧のことです。ラージヤというのは王様です。ですから、これは高僧の中でも特に偉い方でござります。それからマハームニ、マハーとは大きい

という意味、ムニとは聖者でございます。そういう尊い称号を受けていらっしゃる最高の地位の高僧の方が、国外へお出掛けになつて得度式において法を授けるということは、これは仏教の歴史においても初めて、と伺つております。かつて例のないことでございましょう。伺つた



者はお導びきいただけますけれども高僧の方が海外からのご依属いじょくを受けてはるばるお出まし下さつた、これだけでも仏教の国際交流の大きなことがらであると思うのでございます。そうして四人のご子息様が道をお受けになる。ありがとうございます。

日本では大体大乗仏教が行われておりまして、このテーラバーダという南方仏教のことはあまり以前には知られておりませんでした。ましてやこちらで得度されたということは、かつて例がないと思います。

本当に私も驚嘆致しましたのは、四人のお若いお坊様方が、パーリ語のこの儀式の文句あるいは聖典の文句を暗唱していらっしゃることです。それは大変なことで、今の日本の青年が日本古典をどれほど暗誦しているかと思いますと、パーリ語を身につけていらっしゃるというのは驚くべきことであり、それだけでも、テー

ラーバーダ、南方の仏教との交流は、ここに固められたと思うのでござります。

このごろは日本にも、テレビや何かでアジアのことが伝えられるようになりますけれども、ついこのあいだまでは、お互に理解が充分ではありませんでした。その一例として申し上げますと、もう二十年ぐらい前になりますけれどハワイで東西哲学者会議というのがございました。これは東と西の間で理解を深めようと、東と西の前に東の間でまず理解を深めなくてはならない。そこで主催者のチャーレズ・ムアという教授が特別に席をつくつて下さったんです。そこで、北の方からといふことで私もそこへ出席しました。それから南の方からはたまたまビルマのウ・ティッピラといふ偉い仏教学者が来ておられたのです。二人並んで質問をうけて、何でも話をするという非常にうちとけた会を開いて下さいました。

その時に、ウ・ティッピラ大僧正様がおつしやるにはこうなんですね。大乗とテーラバーダということが言わされたけれども、私はマハーヤーナ、大乗仏教という仏教があるということを、このハワイのホノルルに来てはじめて知つた、ところおつしやるんです。そのウ・ティッピラ先生は英語はペラペラで、ロンドンに十四年いて布教に従事されたというんですからマハーヤーナ・ブデイズムを知らないはずはないんです。ところが、まだその言葉がその雰囲気においてはまるくらに、同じアジアの国々の中でも北と南の間の理解というのが開かれていたなかった。そういうことを思いますとまずその確実な道を拓いていくこと。黒田ご老師様の四人のご子息様は、いずれまたむこうの方に行かれるということもございましょう。むこうの権威あるテーラバーダ仏教を我々の間に伝えて下さいましょう。そしてまた日本のことでもお伝えいただくと

いうことになりましょう。日本のことというのも、あちらには決してまだ十分に知られてはおりませんので、これこそ精神面の、尊いひとつの出来事であると思つております。ことにタイの国の中僧の方々が、道をひらいていただいたいことは、私にしてもなんともありがたいことなのでござります。老人は昔のことしか知つていませんから…。

それを申し上げますと、学生時代に、国際連

盟の事件がありまして、そのころは満州事変で、日本が世界中から袋だたきになつたのです。その時ですね、日本に味方して下さつたのはタイの国だけです。国際連盟で問題になつた時に、タイの国の代表の方だけが棄権して下さつた。消極的にではあります、日本に思いやりを見せて下さつたんですね。で、この恩が、日本人としては忘れることができないと思うんです。

その為に、日本の側でもタイの国に何か奉仕し

なければならぬ、と今経済活動の中心がタイに移つてゐるそうです。すでにシンガポールとか香港などに投資する段階は超えて、今、タイの国に目を向けていると申します。ただ、経済面のことだけを考えていたのでは、またエコノミック・アニマルといつてたたかれるだけのことです。経済面でも政治面でも、活動を正しく立派に実行するためには、精神が伴わなければなりません。

その精神面に黒田ご老師様がご尽力下さいまして、それをタイの高僧の方が心よくお受け下さり、はるばる遠路をおいで下さりました。おいで下さいますときには、あの立派なご仏像をおもたらし下さいまして、そうしてそれをお受けするのにご宗門の曹洞宗の淑徳、高僧の方々がお忙しい中から、このように大勢ご参上、ご協力くださつたというのは大変ありがたいことだと

思います。

曹洞宗と申しますのは、日本では最大の教団でございます。その最大の教団が、ここに積極的に意志を表明されたということ、非常に、仏教の交流あるいは仏法の交流ということがさかんになるためにまことに有難いことだと思ひます。さらに、曹洞宗ご宗門だけではございません。本日はお近くということでもございましょうが、鎌倉の浄土宗光明寺の藤吉慈海じかいご老師様が、今ご健康をちょっとといとわれて、いるそうでござりますけれど、わざわざご臨席下さいました。まことにありがたいと思ひます。ことに藤吉ご老師様は高僧であるという以上に、それと並んで非常に国際的な視野をお持ちになり、現に海外でも、たびたびご講演になつておられまして、外国の人々も尊敬申し上げておるのです。

そういう方々がご臨席になられたということは、本日の御得度式の意義をますます高めると

思います。またお忙しい方々、ご壇家の方々、ご縁のあられる方々が皆様お集まり下さいまして、私いちいちお目にかかるつてございさつしておりませんけれど、このようにご参加下さいましたということは、今後の仏教の交流が、予見され、あらかじめ見ることができるようにあります。それによつて明るい日本が、さらにひいては明るい世界が、創り出されるのでござります。そう思ひますと、四人の若い方が得度したという、これは計り知れない大変な意義があると思ひますし、まことに有難いことだと思つております。

一言お祝いの言葉を述べさせていただきました。本日はどうもありがとうございました。